

Book Information

男性の育児休業

2010年に「イクメン」が流行語大賞となってから7年が経ち、保育園の送迎をする父親や休日に抱っこ紐をして歩く父親の姿も珍しくなくなりました。家電や洗濯洗剤のCMでも男性俳優が家事・育児を当たり前の日常としてこなしている姿が映し出され、男性の家庭参画は以前ほど特別なことではなくなっているようです。

同様に男性の育児休業（以下、育休）取得にも変化が見られます。2015年度の男性の育休取得率は2.65%で、1996年度の初回調査以降最高を記録し、新聞等でも大きく取り上げられました。^{*1}しかし、女性の取得率（81.5%）に比べるとかなり低く、取得期間も女性に比べるとまだまだ短いのが現状です。「育休制度を利用したかったが実際には利用しなかった」としている男性は30%で、希望しても取得できない人も存在しています。^{*2}制度が整っていても女性に比べると取得しにくい職場の風土も一因とされています。

男性が育休を取得するメリットはなんでしょうか。まず、妻に偏りがちな家事・育児の負担を夫婦で担うことにより、妻の産後うつを予防したり、妻の就労継続を促

します。また、男性自身にとっては父親としての役割意識を形成するとともに仕事にも役立つマネジメント力を養う機会となります。企業にとっても従業員のワーク・ライフ・バランスを促進することで優秀な人材の離職を防ぐ等、多くのメリットがあります。そして、何より、子どもとの大切な時間を過ごすことで家族の絆を強めるかけがえのない時間となります。

厚生労働省の「イクメンプロジェクト」のホームページ (<https://ikumen-project.mhlw.go.jp>) には、一般向けの情報だけでなく、企業向けの事例紹介や従業員及び管理職向けの社内研修資料も掲載されています。また、NPO法人ファザリング・ジャパンは育休取得者の体験談を集めた「パパ育休ファイル」(http://fathering.jp/ikukyu_file) を公開しています。是非参考にしてみてください。

* 1…厚生労働省（2015）『雇用均等基本調査』

* 2…厚生労働省（2015）『平成27年度仕事と家庭の両立に関する実態把握のための調査』

【役立つ3冊をご紹介します】

※市内図書館&すくらむ21で読めます&借りられます。



共働き夫婦必読の一冊

『育児は仕事の役に立つ 「ワンオペ育児」から「チーム育児」へ』

育児経験がリーダーシップやマネジメント等、仕事に役立つ力を促進することを定量的に分析。また、家族内だけでなく、家族外との協力体制構築のための具体的なノウハウも盛り込まれていて、仕事と子育ての両立に役立つ情報満載。育休中の「チーム育児」体制づくりに役立ちます。

著：浜屋 祐子 中原 淳
出版：光文社新書、2017年



イマドキパパの戦略本

『「パパは大変」が「面白い！」に変わる本』

「イクメンブルー」という言葉の通り、仕事と家庭の両立に頑張りすぎてストレスを溜め込んでしまう父親達に、日本最大の父親支援NPOの代表理事である安藤哲也氏から熱いメッセージ。育休取得の際の職場とのコミュニケーションについてのアドバイスもあり。父親であることをもっと楽しみたいくなる一冊です。

著：安藤 哲也
出版：扶桑社、2017年



「働きたい！」と思ってもらえる経営戦略

『いい人材が集まる、性格のいい会社』

「経営戦略本」というと堅いイメージですが、この本はとても温かい。それは、一貫して「人」を中心に据え、企業や社会の中でどのように人が成長し合うかが論じられているからだと思います。多くの企業事例とともに人と企業の育て方を紹介。著者自身も半年の育休を取得しており、その体験も綴られています。

著：佐藤 雄佑
出版：クロスメディアパブリッシング、2017年

絵本の紹介 生きること学ぶこと

ジャムおじやま

朝、保育園にパパと通う子どもの姿が普通の光景として見られるようになってきました。子どももパパも笑顔です。世の中では、育児に参加する男性を「イクメン」と呼んでいます。川崎ではもう一歩進めて「イクメン」と呼んでいます。子育てにも地域にも生き生きと関わって欲しいと願うからです。

さて、今日ご紹介する絵本は「ジャムおじやま」というタイトルです。パパの自慢のママが働きに出ることになり、パパが家事一切を引き受け奮闘する物語です。さらに庭の大きなプラムの木にたくさんの実がなり、それでジャムを作り、家中がジャムだらけになります。いくら食べても減らないので、タイルを貼り付けるのにも屋根を修理するのにも、ジャムを使うほどです。もちろん夢の中にまで出てきます。やっと全部食べ終えたと思ったら、庭の木には今年もプラムが鈴なりに……………

このようなパパが日本でもメディアの話題に上るようになりました。政府は男女の多様な働き方を推進し、



著者：マーガレット・マーヒー／文
ヘレン・クレイグ／絵
たなかかおるこ／訳
出版：徳間書店

すくらむ21
館長
推薦

長時間労働を減らし、家事・育児にかかる時間を増やそうと取り組んでいます。また、出産した女性の育児休業取得率は上がっていますが、夫の育児休業取得率はなかなかあがりにくいようです。平成29年度版「男女共同参画白書」（内閣府）によれば、平成32年の男性の育児休業取得率目標値（民間企業）は13%ですが、平成27年現在2.65%と低いままです。男性は職場の目が気になり取りにくいのでしょうか。そこで今話題になっているのは「イクボス」です。

日本で、絵本のようなパパが普通になるのはいつ頃なのでしょう。夢に見ながら「千里の道も一歩から」です。

すくらむ21 4～6月の新入荷書籍

※すくらむ21で読めます＆借りられます。

育児は仕事の役に立つ——「ワンオペ育児」から「チーム育児」へ 著者：浜屋 祐子、中原 淳 出版社：光文社	未来をひらく男女共同参画——ジェンダーの視点から 編著：西岡 正子 出版社：ミネルヴァ書房
「パパは大変」が「面白い！」に変わる本 著者：安藤 哲也ほか 出版社：扶桑社	はじめてのジェンダー論（有斐閣ストゥディア） 著者：加藤 秀一 出版社：有斐閣
いい人材が集まる、性格のいい会社 著者：佐藤 雄佑 出版社：クロスメディア・パブリッシング	男も女もみんなフェミニストでなきゃ 著者：チママンダ・ンゴズイ・アディーチェ文 くぼたのぞみ訳 出版社：河出書房新社
オランダ流ワーク・ライフ・バランス ——「人生のラッシュアワー」を生き抜く人々の技法 著者：中谷 文美 出版社：世界思想社	ナショナル ジオグラフィック日本版 2017年1月号 ——ジェンダー革命 著者：ナショナルジオグラフィック編集部 出版社：日経ナショナルジオグラフィック社
場作りの教科書 著者：長田 英史 出版社：芸術新聞社	一日だけうさぎ 著者：原 知子、こば ようこ 出版社：くもん出版
正社員消滅 著者：竹信 三恵子 出版社：朝日新聞出版	ジャムおじやま 著者：マーガレット・マーヒー／ヘレン・クレイグ絵 たなか かおるこ訳 出版社：徳間書店
同一労働同一賃金の衝撃 ——「働き方改革」のカギを握る新ルール 著者：山田 久 出版社：日本経済新聞出版社	道はみんなのもの 著者：クルーサ／モニカ・ドペルト絵 岡野 富茂子、岡野 恭介共訳 出版社：さえら書房
地域連携による女性活躍推進の実践 ——持続可能な地域づくりに活かす行政と民間のつながり 著者：国立女性教育会館 出版社：悠光堂	くまのトーマスはおんなのこ ——ジェンダーとゆうじょうについてのやさしいおはなし 著者：ジュシカ・ウォルトン／ドゥーガル マクファーソン絵 かわむら あさこ訳 出版社：ポット出版プラス

